

看護部

1. スタッフ構成(2026年3月時点)

- 青野 洋子(看護部長)
- 阿部 カナエ(副看護部長)
- 濱田 理恵(副看護部長)
- 矢野 奈美(副看護部長)
- 毛利 友香(副看護部長)

■ 看護職員状況(2026年3月31日時点)

	在籍数	産休 (産前)	産休 (産後)	育休	病休 休職等	実人数
正規						
看護師	706	1	4	54	9	638
新規採用者(新卒)	44	1			2	41
短時間勤務看護師	51					51
小計	801	2	4	54	11	730
会計年度任用職員						
看護師	49					49
准看護師	1					1
保育士・管理栄養士・介護福祉士・臨床工学技士	12					12
病棟看護アシスタント	36					36
病棟クラーク	13					13
外来助手	10					10
クリニカルアシスタント	10					10
事務補助	8			1		7
小計	139	0	0	1	0	138
合計	940	2	4	55	11	868

■ 2025年度採用

新規採用者:63名(既卒:9名、新卒:54名)

2. 認定資格取得(2026年3月時点)

資格名	資格取得者
日本看護協会	
がん看護専門看護師	武田千津
新生児集中ケア認定看護師	西田ありさ
がん化学療法看護認定看護師	山下広恵、池内靖恵
乳がん看護認定看護師	外山修子
救急看護認定看護師	山下さつき、矢野奈美、山崎誠
集中ケア認定看護師	中村京子
緩和ケア認定看護師	加藤弘子、西谷恵
感染管理認定看護師	岩本悟志、宇都宮麻美子、日野恵子、若林美代子
手術看護認定看護師	渡部早人、今井幹也
小児救急看護認定看護師	藤原優子
皮膚・排泄ケア認定看護師	久保美千代、和田理枝
摂食・嚥下障害看護認定看護師	山下かおり

認知症看護認定看護師	玉利未来
糖尿病看護認定看護師	兵頭佳代子
慢性心不全看護認定看護師	重川みか
クリティカルケア認定看護師	越智康弘

3. 運営方針

<理念>

愛媛県立中央病院看護部は常に看護の本質を追求し、ぬくもりのある質の高い看護を提供します。

<方針>

- ・看護職として生命の尊厳・患者さんの権利を尊重します。
- ・病院の目指す方向を理解し、専門職としての役割を認識するとともに、その時代背景に応じた安全で質の高い看護を提供します。
- ・チーム医療の要として、多職種チーム医療の推進役を担います。
- ・病院組織で働く人間として、社会人・組織人としての行動が取れるとともに、看護の専門職業人に必要とされる知識・技術・態度を磨き、自らの成長に向け努力できる看護師を育成します。
- ・職場環境の整備を行い、働き続けられる職場づくりを行います。
- ・健全化を目指し、効率的な病院経営に参画します。

4. 実績

<看護サービス目標>

令和7年度の看護部では、「患者一人ひとりの個別性を尊重し、多職種と連携して質の高い看護ケアを提供することで、患者の早期回復と生活の質(QOL)の向上を目指す」というサービス目標を掲げ、各領域において多角的な取り組みを展開してまいりました。今年度の活動を通じ、組織的な連携強化や専門性の向上において一定の成果が得られた一方で、労働環境の整備や地域連携の深化など、次年度に継続して取り組むべき明確な課題も浮き彫りとなりました。

まず、退院支援および経済評価の側面においては、平均在院日数10.2日という短期間のサイクルながら、病床利用率90.8%という高い稼働を維持することができました。特に、令和6年度から継続してきた「入院時支援加算1」の算定増です。これは入院サポートセンターや地域医療連携室との連携が具体化した結果であり、外来段階から看護師が介入して患者の身体状況や社会背景を把握する「入院前から退院を見据えた支援」が組織文化として定着してきた成果と言えます。しかし、在宅復帰が困難な事例の増加に伴い「介護支援等連携指導料」が減少傾向にある点は看過できません。今後は「出口」の確保に向けた多職種連携を再強化するとともに、現在実績が停滞している「退院前・退院後訪問指導」の再構築を図り、地域との繋がりを強固にすることで再入院防止に繋げていく必要があります。

患者の早期回復とQOLの向上、および看護師のやりがいに関する評価では、患者満足度が非常に高い水準(入院4.66点、外来4.46点)で維持されており、当院の看護サービスの質の高さが証明されました。しかし、その裏側で看護師のやりがい・満足度スコアは微増に留まり、他職種と比較して業務負荷が高い状況が続いています。質の高いサービスが看護師の献身

的な努力に依存している現状は、組織の持続可能性の観点から喫緊の課題です。今後は、看護補助者の活用拡大や事務作業のIT化を加速させるとともに、業務内容を抜本的に洗い出し、タスクシフトを推進する体制づくりが不可欠です。また、重症緊急入院の高齢患者増加に伴い、在宅復帰率が89%と前年度を下回った事実を真摯に受け止め、復帰率の数値目標のみならず、地域全体で患者を支える「再入院させない仕組みづくり」へと視点をシフトしていくことが求められます。

高齢者ケアおよび周産期・小児医療の充実については、明暗が分かれる結果となりました。高齢者医療では、CGA(高齢者総合的アセスメント)の導入により多職種介入の土台は築かれましたが、認知症ケアチームの助言が現場の実践に反映されにくいという課題が残りました。次年度は入院前からのアセスメント体制を標準化し、情報の断絶を解消することが目標となります。一方で、周産期・小児領域では、医師やコーディネーターとのカンファレンス実施率・家族同席率ともに100%を達成し、極めて質の高い退院支援体制を確立できました。訪問看護ステーションとの連携を通じてスタッフの意識変容も進んでおり、このシームレスな関わりをハイリスク事例にも応用していく方針です。

医療安全およびリスクマネジメントの強化に関しては、転倒・転落の発生件数が全国水準より低いものの、重症事例が9件発生したことを重く受け止めています。アセスメント不足が主な要因として挙げられており、多職種によるベッドサイドでのラウンドやKYT(危険予知トレーニング)の質をさらに高める必要があります。身体拘束については、解除に向けた話し合いが促進され実施率は減少しましたが、そのプロセスを記録に残す仕組みが不十分です。今後は、専門・認定看護師の知見を活用しながら、患者の生活動作から「先読みする能力」を養い、倫理的配慮と安全確保を両立させる実践力を組織全体で底上げしていく必要があります。

最後に、意思決定支援と倫理的課題への対応力については、全部署で認知症ケア研修の受講が進み、組織全体のレベルアップが図られました。特に困難事例の振り返りやデスカンファレンスにおいて、専門看護師・認定看護師と協働したことで、スタッフが専門的視点からの学びを得られたことは大きな収穫です。意思決定支援のガイドラインを部署のチェックリストに組み込むなどの具体的工夫も見られました。今後は、これらの部署ごとの成功体験を看護長会等で共有し、病院全体の倫理的傾向を把握・分析することで、組織としての倫理的感受性をさらに研鑽してまいります。

<看護部管理目標>

「研修の学びや看護実践での経験を現場で活かせるよう部署の学習環境を整え、看護師個々の実践能力の向上を図る。」

部署でのOJTをはじめ、看護情報委員会による記録監査、領域別研修、急変対応教育、部署内学習会などを体系化しました。その結果、部署内学習会の参加率は60～70%以上を維持でき、領域別研修や急変対応教育においては、認定看護師や医師の協力を得ることで、より実践的な学びの場を提供することができました。また、記録監査の結果、個別性のある看護記録の記載率が71%に向上し、SOAP記録の定着により、看護プロセスの可視化が進みました。一方で、臨床ラダーの段階進級が十分に進まなかった点は今後の課題です。今後は、新人看護師へのリフレクションを活用したOJTの質向上や、主任・専門員に対するキャリア形成支援の動機づけを強化する必要があります。また、研修に参加しにくい時短勤務者に対しては、eラーニングや現場での短時間OJTといった柔軟な教育形態を構築してまいります。さらに、看護補助者についても、技術チェックリストや補助者用ラダーの導入によって実践力の向上や可視化をし、多職種連携の要としての役割を明確化していく方針です。

■ 2025年度 県立病院看護職員研修(4病院合同)

研修名	目的	担当講師	開催日	参加
ラダーレベルI トライ				
①既卒新規採用者看護職員研修 ②新卒新規採用者看護職員研修	新規採用看護職員として、県立病院の理念と組織を理解し、看護専門職業人としての自覚を養うとともに、職員相互の交流を深め連帯意識を醸成し、新しい職場環境への定着化を図る	公営企業管理局職員 他	①5月15日 ②5月15～16日(宿泊)	①12名 ②77名
新卒新規採用者リフレッシュ研修	新卒新規採用看護職員が、心理面・身体面のストレス対処法を知り、講義や講話、新卒新規採用看護職員同士の交流を通して目指す看護師像に立ち返るなど、意欲的に仕事を続けるための活力を養い、職場への定着化を図る	公営企業管理局職員 他	10月24日	70名
ラダーレベルII トライ				
2年目看護職員リフレッシュ研修	2年目看護職員が、同期で一つのものを完成させることにより、チームで働く力を養うとともに、2年目看護職員同士の交流を通して意欲的に仕事を続けるための活力を養い、職場への定着化を図る	県立病院カウンセラー 他	①10月1～2日 ②10月8～9日 ③10月28～29日	58名
フィジカルアセスメントI(基礎編)	対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメント能力を養う	集中ケア認定看護師 中村京子 救急看護認定看護師 山崎誠 小児救急看護認定看護師 藤原優子 クリティカルケア認定看護師 越智康弘 県立今治病院 救急看護認定看護師 渡部大志 県立新居浜病院 集中ケア認定看護師 加藤あゆみ	7月25 or 28 or 29日 9月25 or 26 or 29日	65名
看護過程の展開I(基礎編)	看護過程の意義・プロセスを理解し、多角的なアセスメントから看護の方向性を導き出すための知識と技術を習得する	愛媛県立医療技術大学 保健科学部看護学科 成人老年看護学講座 助教 仲田琴美	8月1日、9月16日	56名

入退院支援	地域連携システムを理解し、入退院支援・地域連携・多職種連携協働における看護師の役割や、必要な知識を学び活用する	上智大学 総合人間科学部看護学科 教授 坂井志麻	6月19 or 20日	60名
ラダーレベルⅢ トライ				
看護倫理Ⅰ	日々の看護実践における倫理的ジレンマから倫理的問題を明らかにし、看護者としての自身の役割や責任を理解したうえで倫理的意思決定ができる。また、自部署における倫理的課題の解決ができる。	がん看護専門看護師 武田千津	9月11日、10月10日	37名
フィジカルアセスメントⅡ(症例編)	フィジカルアセスメントの理解を深め、臨床で活用できる	集中ケア認定看護師 中村京子救急看護認定看護師 山崎誠小児救急看護認定看護師 藤原優子クリティカルケア認定看護師 越智康弘 県立今治病院 救急看護認定看護師 渡部大志 県立新居浜病院 集中ケア認定看護師 加藤あゆみ	6月6日	24名
看護過程の展開Ⅱ(実践編)	看護過程と理論の関係を理解し、根拠に基づいたアセスメントを行うことで、個性のある看護実践に繋げる能力を養う	愛媛県立医療技術大学 保健科学部 看護学科 成人老年看護学講座 教授 松井美由紀	9月30日、12月23日	27名
中範囲理論	理論を活用して対象を理解し、看護実践に活かすことができる	NPO 法人看護キャリア開発センター 代表 下山節子	6月17日、11月4日	10名
マネジメントⅠ	リーダーシップを発揮してチーム運営で成果を上げる	株式会社メディカルクリエイト 山下まゆみ	6月24日	19名
人材育成Ⅰ(教育技法)	対象に合わせた教育技法を理解し現場で活用することができる	愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 教授 中井俊樹	7月10日	37名
看護研究の基礎	看護研究の一連のプロセスについての基礎知識を学ぶことができ、研究的な視点を養う	愛媛県立医療技術大学 保健科学部 看護学科 看護学科長 教授 野本百合子 各病院看護研究委員	6月2日、7月7日、8月26日、10月7日	20名
ラダーレベルⅣ トライ				
意思決定支援	ケアの受け手や周囲の人々それぞれに応じた意思決定に必要な支援ができる	がん看護専門看護師 武田千津	11月17日	18名
フィジカルアセスメントⅡ(症例編)	フィジカルアセスメントの理解を深め、臨床で活用できる	集中ケア認定看護師 中村京子救急看護認定看護師 山崎誠小児救急看護認定看護師 藤原優子クリティカルケア認定看護師 越智康弘 県立今治病院 救急看護認定看護師 渡部大志 県立新居浜病院 集中ケア認定看護師 加藤あゆみ	6月6日	12名
中範囲理論	理論を活用して対象を理解し、看護実践に活かすことができる	NPO 法人看護キャリア開発センター 代表 下山節子	6月17日、11月4日	17名
セルフマネジメント	アサーティブコミュニケーションを活用し、お互いを尊重しながら相手と良い関係を保つことができる	株式会社 ハートセラピー 杉山修	10月11日	18名
役割				
人材育成Ⅱ(ファシリテーション)	ファシリテーターの役割を理解し、組織の中で円滑な合意形成に導く能力を養う	ひとづくり工房 esuco 代表 浦山絵里	8月25日	49名
マネジメントⅡ	マネジメント力を発揮し、部署や組織の課題を明らかにし変革に取り組む	株式会社メディカルクリエイト 山下まゆみ	6月30日、8月18日	18名
管理者育成研修(看護長)	管理者自身がファシリテーションを活用し、現場の対話を活性化させ、学びあう組織文化を醸成する 1)管理者がファシリテーションの基本を理解し自ら実践する 2)現場の対話を促進するために「伝える」「聞く」姿勢を現場に浸透させる 3)管理者として、育ちあう組織を形成するための環境づくりができる	ひとづくり工房 esuco 代表 浦山絵里	9月14 or 15日	54名

災害				
災害研修 1 日目: 病院内の災害時のケア 2 日目: 災害拠点病院の役割とリーダーシップ	1.災害時の備えについて理解できる 2.災害時の対応がわかる 3.災害拠点病院の機能がわかる 4.災害看護に必要な知識・技術を習得し実践で活用する力を養う	災害医療センター長 馬越健介 救急看護認定看護師 山下さつき 救急看護認定看護師 山崎誠 集中ケア認定看護師 中村京子 県立今治病院 DMAT 阪尾佳彦 県立新居浜病院 DMAT 松本静	12 月 8・9 日(公開研修)	43 名 (うち他施設 30 名)
トピックス				
「LGBTQ と医療」 ～誰もが安心できる医療現場をめざして～	LGBTQ の人々が医療で抱える困難を知り、医療者として誰もが安心できる医療現場づくりを考えることができる	まるとインクルーシブ病院の実装プロジェクト 鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野 特命助教 金弘子(きむ・ほんじゃ)	9 月 13 日(公開研修)	44 名 (うち他施設 6 名)

【専門・認定看護師活動報告】

○がん看護専門看護師活動:武田千津

(1) 院内活動

＜がん治療センター運営委員会＞

- ・がん治療センター運営委員会参加(3月5日、7月2日)

【緩和ケアチーム】

- ・緩和ケアチームラウンド(1回/週)
- ・緩和ケアチーム依頼延べ患者数:15名
- ・緩和ケアスクリーニング延べ件数:1,179件
- ・緩和ケアチームラウンド延べ患者数:475名
- ・緩和ケア研修会(8月10日)

【がんゲノムチーム】(チーム会:2月27日、6月14日)

- ・エキスパートパネル(1回/週) 参加
- ・当院エキスパートパネル出検数:34件
- ・がんゲノム医療連携病院説明会(1回/月) 参加

【AYA世代がん患者支援チーム】

- ・AYA世代患者28症例の把握および支援
- ・症例カンファレンス(1回/月)
- ・係会・ミニ勉強会(1回/2か月)

【地域がん診療連携拠点病院 WG】

① がん相談支援センター

- ・全相談4,441件のうち906件を担当(20.4%)

② キャンサーボード

- ・キャンサーボード参加(第2・4木曜日8:15-8:30)
- ・臨時キャンサーボードコーディネート(2月6・28日、3月22日、5月7・24日、7月23日、8月16日、10月1・17日)

③ 市民公開講座企画(愛媛 CATV 放映)

- ・10月6日開催 第32回『がん薬物療法について』当院がん治療センター長 名和由一郎、薬剤師 十亀将暉、がん薬物療法看護認定看護師 池内靖恵
- ・2月22日開催 第34回『あなた自身の人生の最後、どのようにしたいですか』『がんになっても安心して過ごせる知っておくと得する緩和ケア』聖愛会 松山ベテル病院 院長中橋恒

④ 症例検討会企画(がん治療センター・地域医療連携室主催)

- ・第138回医療連携懇話会(8月21日)「患者自身が自分の生き方を選択し、その希望を叶えるための支援を考える～血液悪性腫瘍患者の事例を通じて～」(当院血液内科医師、病棟看護師、地域医療連携室医療社会福祉士、地域の医療機関および介護支援専門医からの発表・意見交換)

⑤ ルタテラ WG

- ・担当振り分け、実施に向けた準備

(2) その他の院内活動

- ・患者支援室運営委員会
- ・臨床倫理問題検討部会(9月以降1回/月開催)
- ・専門・認定看護師会
- ・新人III期研修 看護倫理(10月9日)

- ・県立病院看護職員合同研修「看護倫理I」講義(6月14日、7月22日)
- ・県立病院看護職員合同研修「看護倫理II(意思決定支援)」講義(11月14日)
- ・部署カンファレンスへの参加(1月26日外来、2月14日外来、5月30日術前カンファレンス)
- ・看護長会勉強会「看護倫理」(8月20日、9月17日)
- ・次席会勉強会「意思決定支援」(12月10・24日)

(3) 院外活動

- ・愛媛県がん診療連携協議会がん看護専門部会がん看護実践能力向上研修 企画委員
- ・がん看護実践能力向上研修「ACP」講師(9月12日)
- ・ELNEC-Jえひめ ファシリテーター(8月24・25日)
- ・愛媛県がん診療連携拠点病院協議会緩和ケア専門部会(2回/年)
- ・愛媛県がん診療連携拠点病院協議会相談支援専門部会(2回/年)
- ・がん相談員研修ワーキング 企画・運営
- ・相談員研修(3月16日、9月28日、11月9日) 企画・ファシリテーション
- ・松山看護専門学校講義(8月29日)
- ・愛媛県立医療技術大学講義(7月18日)

(4) 自己研鑽

- ・第1回愛媛県がん相談員研修会事例検討会～評価表を用いてより良い相談対応について考える～(9月28日)
- ・第11回日本CNS看護学会 Web参加(6月)

○新生児集中ケア認定看護師活動:西田ありさ

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	名称	対象
11 月 21 日	看護の専門性を発揮できる体制の構築－安全な輸液管理を行うためのタスクシフトー	認定看護師会

(1) 実践・指導・相談

＜実践＞

- ・急性期の直接ケア(フィジカルアセスメント、看護過程の展開)に介入し、スタッフと実践を行いました。
- ・医師・看護師・薬剤師との回診カンファレンスを毎朝行い、患者の看護ケアや治療方針、薬剤管理等について対象に応じた方針を検討しました。

＜指導＞

- ・療養環境(呼吸・循環・体温・感染・栄養・水分代謝等)に関するケアについて直接ラウンドで指導を行いました。
- ・新生児のフィジカルアセスメントや看護過程の研修課題について指導しました。
- ・新生児の初期ケアの実践や人工呼吸器管理対象児の看護実践等の指導を2・3年目看護師5名、2名の転入者へ指

導し、27%のスタッフは部署ラダーIIに上がりました。

- ・ 部署ラダー別の受け持ち担当表を可視化し、受け持ち患者を中心にNICUからGCUの一連の看護展開を行う体制としました。97.6%のスタッフが入院から退院まで受け持ち患者を担当支援しました。段階的な看護ケアや家族との関わり方について指導を行いました。
- ・ 実地指導者全体へNICU看護実践における成長のマトリックス(4つの力×ラダー別)を見える化し、ラダーレベルに応じた指導のポイントについて指導しました。

<相談>

- ・ コンサルテーションでは、入院の受け入れについて、体温管理、吸引方法の技術やホールディングでの安定化、機器の取り扱い等の相談対応を行いました。
- ・ 他部署で新生児ケアに対する相談があった際は組織横断的に対応しました。
- ・ NICU・GCUで起こったインシデント、特に、胃チューブ管理や抑制に対する対策、薬剤管理や感染課題に対する相談があり、ともに解決しました。

○がん化学療法看護認定看護師活動：池内靖恵、山下広恵

(1) 院内部署活動

<実践>

① 12階東病棟実績

- ・ 入院患者数:759人(前年797人)
- ・ 化学療法実施件数:2,586件、日別:7～8件(前年2,729件)
- ・ 実施レジメン件数:2585件(前年1,950件)
- ・ 化学療法パス適用件数:151件(前年187件)

② 外来化学療法実績

- ・ 外来実施件数:9,004件(前年9,847件)、日別:14～70件(前年22～71件)
- ・ 患者数:1,096人(前年1,152人)
- ・ 新規患者数:463人(前年515人)

※2020年2月抗悪性腫瘍薬皮下・筋肉注射は各診療科、中央処置室で実施。実施総数:1,653件(前年1,768件)[血内/乳腺/婦人/小児/眼科]

<活動内容>

① 12階東病棟

- ・ 移植治療やがん薬物療法を受ける患者への多職種で連携した患者・家族の意思決定支援、セルフケア支援
- ・ がん薬物療法に関する勉強会、準備、実施、看護師支援
- ・ 二重特異性抗体薬治療における投与管理手順書、CRS、ICANS対応フロー作成、看護師支援
- ・ クリニカルパス作成(A+CHP、リンパ球採取)、改訂(骨髄採取、EPOCH、Pola-R-CHP、CHOP、R-CHOP、R-MPV、AZA)
- ・ 他科化学療法の投与管理支援

② 外来化学療法室

- ・ 多職種による患者待ち時間低減に向けた運用検討
- ・ 患者待ち時間低減のための部署業務改善
- ・ 栄養スクリーニングと栄養指導実施に向けての取り組み
- ・ 患者・家族への関わり
安全な投与管理のためのカンファレンスの実施
カンファレンス後の介入とその反応の情報共有
CVポート自己抜針患者への指導・支援への取り組み
患者の思いや意思決定を支援するための継続看護
- ・ 治験(肝/血液/肺):勉強会、準備、実施、看護師支援
- ・ 新規採用看護職員 実地指導
- ・ TQM活動:多職種で取り組む入室待ち時間の改善

(2) 院内活動

- ・ がん治療センター運営委員会(2月13日、7月3日)
- ・ 化学療法チーム会(1回/月 計12回)
- ・ 院内クリニカルパス(化学療法パス)作成検討

- ・ レジメン審査委員会(1回/月 計12回)
- ・ 緩和ケアリンクナース育成研修WG(1回/月) 企画・運営
- ・ 末梢神経障害、爪障害予防多職種で運用見直し
- ・ 抗がん薬曝露対策プロジェクトチーム会[2018年発足]:
2019年閉鎖式薬物移送システム(CSTD)導入、実施
髄腔内注射におけるCSTD導入、実施
抗がん薬曝露対策実態調査実施(4月)
2025年3月抗がん薬分解清掃液 10部署導入
院内情報共有資料 ホームページに掲載
- ・ AYA世代がん患者支援チーム:症例カンファレンス(1回/月)、係会・ミニ勉強会(1回/2か月)
がん患者サポート開催:定期14回、臨時2回 計16回
(前年定期17回、臨時9回 計26回)
- ・ がんゲノム医療連携病院エキスパートパネルWeb参加
- ・ 専門・認定看護師会参加
- ・ 腫瘍循環器WG会(9月)
- ・ 管理料取得:がん患者指導管理料 イ):2件(前年6件)、
ロ):1件(前年1件)

<指導>

■ 部署勉強会

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
8月22日、 9月3日、 10月7・24日、 11月5・19日	抗がん剤分解清掃液を用いた日常清掃について	病棟看護師 外来看護師	各部署 5～15人
9月12日	イムデトラを安全に使用するために必要な知識・準備について～医師・看護師・薬剤師の立場から～ 「二重特異性抗体によるCRS対応の実際」	医師 看護師 薬剤師	50人

■ 緩和ケアリンクナース育成研修の企画・運営

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
2月4日	事例発表会	リンクナース	9人
6月20日	研修オリエンテーション 講義「緩和ケアとは」「緩和ケアスクリーニング用紙、ACP説明用紙、意思決定支援について」	リンクナース	13人
8月1日、 9月5日、 10月3日、 11月7日	実践研修会	リンクナース	13人

■ がん患者サロン(みきゃんサロン)ゲスト

開催日	テーマ(内容)	参加
11月12日	薬物治療や副作用対策について話してみませんか?	4人

<講義>

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
2月6日	県立病院看護職員合同研修 ラダーIトライ IV期研修 「がん化学療法患者の看護」 講義・演習	愛媛県立 病院新規 採用看護 職員	58人 欠席 1人

(ファシリテーター)

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
8月9・10日	ELNEC-J 四国がんセンター開催	自施設 緩和ケア リンクナース	7人

<相談>

件数 92件(前年 88件):自部署 40+他部署 31件+電話 21件
(ア) 新薬、部署での新しい薬剤の投与管理、観察、副作用対策など事前準備、および、投与当日の看護師支援

開催日	テーマ(内容)	対象
8月30日	乳がん術後補整下着について	病棟看護師
11月12日	リンパ浮腫指導について	病棟看護師
12月26日	意思決定支援について	病棟看護師

(イ) 退院後の生活指導支援

- ・ 病棟担当薬剤師と看護師からの相談対応
投与管理(ルート、ドリップアイ)、ポート管理、曝露対策

(2) 院外活動

< 講義 >

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
8月30日、 9月13日	厚生労働省造血幹細胞医療体制整備事業「看護基礎研修I・II」Web愛媛県立中央病院 「移植前処置と支援」 「造血細胞移植患者の看護教育に必要な基礎知識とセルフケア支援」講義	医師 薬剤師 看護師 その他	I 46 人 II 37 人
8月28日	成人看護学方法論II 「がん化学療法を受ける患者の看護」	松山看護専門学校第2看護学科2学年	23人 欠席1人

< リソースナース活動 >

- ・ 愛媛県がん診療連携拠点病院：専門部会報告会
東温市 出席(7月3日)

< 自己研鑽 >

- ・ 第39回日本がん看護学会学術集会 札幌市 参加(2月22～23日)
- ・ 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会 神戸市 参加(3月6～8日)
- ・ 第63回日本癌治療学会学術集会 横浜市 参加(10月16～18日)
- ・ 第8回日本腫瘍循環器学会学術集会 大阪 参加(10月25～26日)
- ・ 第23回がん臨床試験協力・参加セミナー 受講(10月18日)
- ・ EHIME BREAST CANCER CONFERENCE Web視聴
『フェスゴ導入の意義、運用状況』視聴(10月28日)

○乳がん看護認定看護師活動：外山修子

(1) 院内活動

< 実績 >

- ① 乳がん手術パス入院患者：210 件
- ② 乳がん化学療法(CE 療法初回)入院患者：40 件
- ③ 乳がん化学療法(トラスツズマブ初回)入院患者：15 件
- ④ 乳がん化学療法(トラスツズマブ+ペルスツズマブ+ドセタキセル初回)入院患者：17 件
- ⑤ 乳がん化学療法(アバスチン+パクリタキセル初回)入院患者：4 件
- ⑥ 乳がん化学療法(ダトロウェイ初回)入院患者：2 件

< 活動内容 >

- ① リンパ浮腫指導管理料：53 件(入院)、33 件(外来)
 - ② がん患者指導管理料イ：計 38 件
 - ③ がん患者指導管理料ロ：計 4 件
 - ④ がん患者指導管理料ニ：計 55 件
 - ⑤ 乳腺・内分泌外科
- ・ 病棟・外来多職種カンファレンス(毎週火曜日17:00～) 医師、看護師、薬剤師、リハビリ部門、地域連携室担当者が参加し、入院前、入院中、退院患者・家族について情報交換、検討した。
 - ・ 入院中の乳がん術後患者に対し、術後リハビリ、ボディイメージ受容への支援、リンパ浮腫予防指導、自己検診、退

院後指導を中心にパンフレットを使用し指導を行った。

■ 病棟勉強会

- ・ 一般社団法人 日本乳癌学会開催
乳がんチーム医療看護師制度 スタンダードレベル研修 e ラーニング 36 講座：病棟看護師から 11 名修了した。

■ 緩和ケアリンクナース研修の企画・運営(3 回/年)

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
2月7日	事例発表会	緩和ケアリンクナース	9名
6月20日	オリエンテーション 緩和ケアとは	緩和ケアリンクナース	13名
8月1日、 9月5日、 10月3日、 11月7日	実践研修会 各病棟で事例検討 薬剤師、臨床心理士参加	緩和ケアリンクナース	13名

■ がんサロンの企画・運営

開催日	テーマ(内容)	人数
1月8日	「リンパ浮腫について」 ゲスト：リンパ浮腫セラピスト	1名
2月12日	「一緒にお話しませんか」	1名
3月12日	「どこでもできる筋トレ～運動のワンポイントアドバイス～」ゲスト：理学療法士	2名
4月9日	「一緒にお話しませんか」	3名
5月12日	「気持ちとの付き合い方」	3名
6月11日	「一緒にお話しませんか」	4名
7月9日	「困ったときの食事のヒント」 ゲスト：管理栄養士	3名
8月13日	「一緒にお話しませんか」	1名
9月10日	「いざというときに備えていますか?一緒に考えましょう」	1名
10月8日	「一緒にお話しませんか」	4名
11月12日	「薬物療法や副作用対策についてお話しませんか?」 ゲスト：がん薬物療法認定薬剤師、がん化学療法看護認定看護師	4名
12月10日	「一緒にお話しませんか」	3名

< がん治療センター運営委員会 >

- ・ がん治療センター運営委員会 参加(2月13日、7月3日)

< がんゲノムチーム >

- ・ チーム勉強会 参加

< 専門認定看護師会 >

- ・ 活動報告会 企画・運営

(2) 院外活動

- ・ 愛媛県がん診療連携拠点病院がん相談専門部会 参加(7月5日)
- ・ サロン担当者交流会 Web参加(10月30日)

(3) 自己研鑽

- ・ 第33回日本乳癌学会学術総会 参加(7月10～12日)
- ・ 日本乳がん学会中四国地方会(9月26～27日)
- ・ 第20回日本乳がん看護研究会CNスキルアップセミナー参加(11月15日)

○救急看護認定看護師活動：山下さつき

(1) 院内活動

■ 研修・勉強会

開催日	テーマ(内容)	部署	対象
1月23日	急変時対応シミュレーション	内視鏡室	看護師
3月7・14日	急変時対応シミュレーション	HCU	看護師
9月4日	急変時対応シミュレーション	内視鏡室	看護師

9月8日	急変時対応シミュレーション	9階東病棟	看護師
9月19日	一次救命処置	生理検査室	臨床検査技師
10月28日	急変時対応シミュレーション	入院サポートセンター	看護師
11月27日	急変時対応シミュレーション	12階東病棟	看護師
12月18日	急変時対応シミュレーション	5階産科病棟	看護師 助産師

一般外来、特殊外来、一般病棟の看護師に対して、急変時対応シミュレーションを実施しました。事例提出後、カルテより記録の確認、情報を収集し、グループワークで事例の振り返りを行い、それらがシミュレーションに活かせるよう指導を行いました。急変事例を振り返り、患者の状態変化への気づきを養うため、今後も急変時対応シミュレーションは継続する必要があると考えます。

医師以外の院内職員に対しては、3回/月、1時間×4回/日、一次救命処置の研修を実施しました。

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象	備考
5月22日	一次救命処置	新規採用職員II期研修	現任教育

(2) 院外活動

<講義・研修>

■ 医療技術大学(講師)

開催日	テーマ(内容)	対象
4月9・16・18日	災害看護 一次救命処置	4年生
10月27日	災害看護基礎	2年生

■ 松山看護専門学校(授業)

開催日	テーマ(内容)	対象
5月27日	一次救命処置	第2看護学科学生
6月19・26日	成人看護学方法論(急性期看護)	第2看護学科学生

■ 西条中央病院(講師)

開催日	テーマ(内容)	対象
5月14日	フィジカルアセスメント(基礎・呼吸)	看護師
7月30日	フィジカルアセスメント(循環・腹)	看護師
8月27日	フィジカルアセスメント(神経系・事例検討)	看護師

■ 4 病院合同研修 公開研修

開催日	テーマ(内容)	依頼
12月8・9日	災害看護研修	県立病院課

○救急看護認定看護師活動:矢野奈美

(1) 院内活動(院内研修企画・開催、院内研修・依頼)

■ RRS 委員会活動

開催日	テーマ	内容	依頼
1月19・26日	RRS実績	RRSのマニュアル説明 令和7年度 RRS活動報告	RRS委員会

■ 定期的な活動

テーマ	内容	活動
救急カート点検	看護師不在部署のカート確認(鍼灸)	毎週月曜日
搬送車の物品確認	搬送車使用後の点検を行う、必要時物品補充	毎週月曜日

(2) 実践

1) 「救急カート」「搬送車」点検

看護師が配属されていない部署の救急カート点検を毎週月

曜日に実施しました。適時調査で指摘された救急カート内の物品の見直し、マスク、酸素延長チューブ・バックバルブマスクを一体化させ、ディスプレイ化、事後の点検を継続して実施しました。令和7年度は小児のBVMについてもディスプレイ化しました。

院内で RRS システムを構築し、令和7年度は月の要請件数が4.3件と増加しており、RRSが周知され活用されていると評価します。2022年10月～2025年11月まで118件の要請がありました。夜間の要請が63%(深夜40%・準夜23%)を占め、要請者は看護師でした。呼吸状態の悪化でRRS起動している例が多く、ABCDの観察が習慣化できたと判断します。令和8年1月19日と26日にRRS研修会を合計4回開催し、51名が参加しました。令和7年度RRS関連研修受講者割合は87.6%で、2024年の64.2%を上回り、課題達成中のため、受講率・RRSの周知の研修・オンライン研修の開催を継続します。また新規採用者研修にはRRS研修プログラムを継続します。

2) 臓器移植について

令和7年度に脳死判定・臓器移植がありマニュアルの見直し、移植コーディネーターの在り方など検討を行った。

事後課題であがった課題を各委員会で調整する予定とし、当院での体制整備を継続して行います。

3) 災害訓練

令和7年度、看護部では水害について検討しました。各部署で水害発生時に職員が何パーセント登院できるか、また部署の備品・水害時の対応を抽出し、課題への対策まで立案しました。登院人数は約60%であり、一時的に業務調整が必須になるため、各部署での手順・物品の調整、災害対策委員会でマニュアル修正を検討しています。

○救急看護認定看護師活動:山崎誠

(1) 院内活動

■ 県立病院合同研修

開催日	テーマ	内容	依頼
6月5・6日	フィジカルアセスメントII	患者のニーズをとらえる力	県立病院課
7月25・28・29日 9月25・26・29日	フィジカルアセスメントI	患者のニーズをとらえる力	県立病院課
12月8・9日	災害研修	災害時の初期対応	県立病院課

(2) 院外活動

■ セミナー講師

開催日	テーマ(内容)	対象
9月27日	ファーストエイドインストラクターコース	看護師
9月28日	ファーストエイド実技コース	看護師

■ 定期的な活動

開催日	テーマ(内容)
偶数月第4金曜	フライトナース会

(3) 実践

① フライトナースの育成

プレホスピタル経験のないスタッフに対して、消防機関に協力を依頼し、ワークステーション実習を経験することでプレホスピタルケアを学べる場を提供しました。また、フライトナース認定指導者としてフライトナース会での症例検討で指導を行い、フライトナースの育成を行いました。

○集中ケア認定看護師活動:中村京子

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	内容	依頼
4月25日	患者観察の基本	院内現任教育
5月19日	呼吸を整える援助	院内現任教育
6月5・6日	フィジカルアセスメントII	県立病院課

7月～9月	フィジカルアセスメントI	県立病院課
-------	--------------	-------

■ 院内勉強会(企画・運営)

開催日	内容	対象
1～12月 第3月曜日	一次救命処置	医師以外の職員
8月28日	急変対応シミュレーション	8階西看護師
9月19日	急変対応シミュレーション	12階西看護師
12月12日	急変対応シミュレーション	6階東看護師

(2) 院外活動

■ 看護学校講義(授業)

開催日	内容
9月4日	成人看護学方法論(急性期看護)
10月9日	訪問看護師養成基礎講習会フィジカルアセスメント

(3) 実践・指導・相談

<実践>

長期入室患者の家族面会時には、家族の状況や希望について、家族の様子を記録として記載することができました。

家族の要望や対応について多職種でカンファレンスを行い、統一した介入に繋げることができました。

<指導>

PICS・PADISのガイドラインについて、日々のカンファレンスの中でガイドラインに沿った内容で医師と話し合い、記録に残すことができました。今後は学習会を行い、基本的知識の習得からさらに深い内容を話し合えるように取り組んでいきます。

<相談>

病棟の急変事例を用いて、急変に至るまでの患者観察や対応について対応しました。今後はICU術後訪問を行い、困難内容について看護介入できるように取り組んでいきます。

○緩和ケア認定看護師活動:加藤弘子・西谷恵

(1) 院内活動

① 院内研修(企画・運営)

■ 緩和ケアリンクナース育成研修

開催日	テーマ(内容)	参加
2月7日	事例発表	9名
6月20日	オリエンテーション・緩和ケアとは	13名
8月1日、9月5日、 10月3日、11月7日	実践研修	13名

■ 新規採用者II期研修

開催日	テーマ(内容)	依頼
4月23日	基本的コミュニケーション	現任教育

■ 院内研修:自部署研修

開催日	テーマ(内容)	対象
7月23日	鎮静の看護	9階東病棟
8月9日	PEACE	院内希望者
9月24日	死後のケア	9階東病棟
10月8日	意思決定支援	9階東病棟
11月20日	内視鏡検査を受ける患者の苦痛に対する看護	内視鏡室

② 緩和ケアチームラウンドへの参加(毎週水曜日 14:30～1回/週)

(2) 院外活動

■ 学会・研究会参加

開催日	名称
2月24～25日	第39回日本がん看護学会学術集会

7月4～5日	第30回日本緩和医療学会学術大会
--------	------------------

■ リソースナースとしての活動

開催日	依頼	テーマ
7月18日	松山看護専門学校	がん患者と家族への関わり
6月11日	愛媛県立医療技術大学	看護学概論(協力者として)
8月10日	四国がんセンター	ELNEC-J

(3) 実践・指導・相談

<実践>

業務の中で症状緩和が必要な患者さんに対し、介入方法等を検討し実践しました。

<指導>

- ・ 自部署で鎮静の看護・意思決定支援について事例を通して振り返り・勉強会を開催しました。
- ・ 実践の中で全人的苦痛のある患者への看護を指導しました。
- ・ 自部署で年4回身寄りのない患者、認知症患者、対応に困った患者について事例の振り返りを行いました。

<相談>

緩和ケアラウンドや病棟内外の依頼に対して、随時対応しました。

○感染管理認定看護師活動:岩本悟志、日野恵子、宇都宮麻美子、若林美代子

(1) 院内活動

■ 院内研修(企画・講師)

開催日	テーマ(内容)	対象
4月14日、 5月22日	NICUでの感染対策	NICU新規採用者、転入者
5月27日	手指衛生遵守率向上に向けた多角的戦略	院内感染対策リンクスタッフ
5・6月	手指衛生のタイミングについてシミュレーション研修	NICU新規採用者、転入者
7月28日	接触予防策について	院内感染対策リンクスタッフ
9月24日	PICC挿入時の感染対策について	NICU看護師
10月27日	CVCドレッシング材交換について	院内感染対策リンクスタッフ
11～12月	耐性菌、接触予防策と標準予防策について	NICU看護師
11～12月	新型コロナマニュアルの概要	全職員

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象
4月2日	新規採用者等オリエンテーション「病院感染予防対策」	新規採用・転入職員
4月17日	新人看護師II期研修「標準予防策」	新規採用看護職員
5月7日	検査部学生オリエンテーション	検査部実習生(学生)
8月21日	夜間看護補助者会「手指衛生と個人防護具(PPE)の着脱」	夜間看護補助者
9月18日	夜間看護補助者会「感染性廃棄物の取り扱いと環境整備」	夜間看護補助者
10月6日	県立病院看護補助者研修「感染予防対策」	看護補助者
10月11日	研修医勉強会「インフルエンザワクチン接種について」	研修医

(2) 院外活動

■ 院外研修(講師)

開催日	依頼元・テーマ(内容)	対象
1月16日、 8月6日	愛媛県看護協会 災害支援ナース養成研修	災害支援ナース受講者

12月17日	松山西病院・院内感染対策研修会「手指衛生のタイミング及び標準予防策に関して」	松山西病院職員
--------	--	---------

■ 他施設訪問指導

訪問日	訪問施設
1月15日、9月30日	医療法人結和会松山西病院
2月25日	あずま泌尿器科クリニック
12月2日	社会医療法人真泉会松山まどんな病院

■ 地域活動

- ・愛媛県中予保健所感染対策マネージャー養成事業(企画会議、アドバイザーとして研修参加):1月28日、3月6日、8月29日、9月29日、12月15日

(3) 実践・活動

① 医療関連感染サーベイランスの実施(関連部署のスタッフの協力のもと実施)

- ・手術部位感染サーベイランス(消化器外科、心臓血管外科)
- ・中心ライン関連血流感染サーベイランス(全病棟)
- ・カテーテル関連尿路感染サーベイランス(全病棟)
- ・人工呼吸器関連イベントサーベイランス(重症部門)
- ・耐性菌サーベイランス
- ・針刺し・切創・皮膚・粘膜曝露サーベイランス
- ・手指消毒剤払出量サーベイランス
- ・JANISサーベイランス(SSSI部門、全入院患者部門、NICU部門)
※JANIS:厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業

② 職業感染防止策の実施

- ・感染制御チーム(ICT)の活動の一環として、ワクチンプログラムの立案と実施
- ・全職種対象のインフルエンザワクチン接種、新型コロナワクチン接種
- ・B型肝炎・流行性ウイルス疾患(麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘)の抗体価検査と抗体陰性者へのワクチン接種
- ・結核患者発生時の対応:接触者調査と接触者検診の実施等
- ・職員の針刺し・切創、体液曝露予防策の推進と発生時の対応等

③ 感染対策リンクスタッフ会の企画・運営(9回)

主に「手指衛生遵守状況の向上」「血管内留置カテーテル関連血流感染予防」について取り組みました。各部署のリンクスタッフが自部署の課題や問題点を改善できるようサポートしました。

④ ICTメンバーと共に感染対策ラウンドの実施(毎週)

病棟は月に1回、その他の部署は少なくとも2か月に1回、環境ラウンドを実施しました。結果は、改善活動に活かせるよう報告書として各部署に配布しました。

⑤ 感染対策の推進

- ・院内感染対策に関する研修会の企画・運営
- ・感染対策マニュアルの作成、改訂と周知
- ・標準予防策遵守向上に向けての取り組み
- ・現場での感染対策に関する指導やコンサルテーション

⑥ 地域連携

- ・感染対策向上加算に係る合同カンファレンスの実施:3月4日、5月13日、9月30日、12月2日
- ・松山・東温感染対策協議会(感染対策向上加算1算定5施設による会):総会(3月14日)
感染対策向上加算に係る相互ラウンド
評価実施:①愛媛大学医学部附属病院(2月12日)
②愛媛医療センター(12月1日)

⑦ 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)活動

- ・カンファレンス(週1回)

- ・血培陽性者・ASTコンサルテーション・抗菌薬長期使用患者の情報収集

○手術看護認定看護師活動:渡部早人、今井幹也

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象
4月7日	1年次研修医オリエンテーション ガウンテクニック・手術時手洗い方法について	1年次研修医

■ 院内勉強会(企画・支援)

開催日	テーマ(内容)	参加
4月8日	感染管理、手術室の環境、手術時手洗い、ガウンテクニック	手術室新人・転入看護師
4月9日	OP室オリエンテーション、手術室の構造と業務、各種マニュアル・手順、教育体制	手術室新人・転入看護師
4月10日	OP室内オリエンテーション 洗浄、組み立て、滅菌、器械の管理、手術室清掃	手術室新人・転入看護師
4月17日	器械展開・カウント方法 補助台カバーの装着方法、使用済み器械の回収方法	手術室新人・転入看護師
5月1日	針刺し防止対策について	手術室新人看護師
2月25日	局所麻酔中毒緊急対応シミュレーション	全手術室看護師

(2) 院外活動

■ 院外研修(依頼)

開催日	名称(テーマ)	対象
6月12日	松山看護専門学校 成人看護学「手術を受ける患者の術中看護」	松山看護専門学校

■ 学会・研修会参加

開催日	名称
7月5・6日	医療コンクリット・マネジメントセミナー
9月20・21日	第39回日本手術看護学会年次大会
10月25日	日本手術看護学会四国地区学会(香川)
11月14・15日	第47回日本手術医学会総会
11月29日	26回第2種滅菌技士認定講習会

■ リソースナース活動参加

開催日	名称
2月26日	リソースナース・マネジメント委員会
4月30日	リソースナース・マネジメント委員会
8月9日	リソースナース全体交流会 リソースナース・マネジメント委員会
11月19日	リソースナース・マネジメント委員会

<実践>

- ・定期手術患者および緊急手術患者の器械出し看護業務・外回り看護業務を実践しました。
- ・中央材料部において手術器械の洗浄・滅菌・組み立てを実践しました。
- ・手術器材、中材部門の固定資産整備計画を実施しました。
- ・脳死下臓器提供に関わり、外部摘出チームの受け入れ、動線確認、物品準備、ドナーの尊厳保持を中心に実践した。特に露出の最小化や体位調整など、手術室特有の環境下での尊厳の保持に配慮し、安全かつ円滑な手術進行に努めた。

<指導>

- ・手術看護業務(器械出し看護業務・外回り看護業務)に対

して、スタッフに日々指導を継続しました。

- ・ 外回り看護業務を経験し始めたスタッフに対して勉強会を実施し、指導することで質の担保ができました。
- ・ 中央材料部において手術器械の洗浄・滅菌・組み立ての指導を行い、インシデント低減に繋がりました。
- ・ 器械出し看護師のタスクシフト対応に向けて臨床工学技士へ器械出し技術の指導を行いました。
- ・ 臓器提供に不慣れなスタッフが多い状況を踏まえ、手術室での役割、外部チームとの協働方法、尊厳保持のポイントについて指導を行った。

＜相談＞

周術期に関連する内容について随時対応しました。また、手術室チーム活動に対して相談を受け、対応しました。

○小児救急看護認定看護師活動:藤原優子

(1) 院内活動

■ 院内研修

開催日	名称	対象
4～7月	小児医療センター新採用者勉強会(計3回)	新採用者、転入者
4～6月	小児 BLS スキルチェック支援	小児医療センタースタッフ、小児科外来の全スタッフ
2月	小児急変時対応勉強会	小児科外来看護師
6月5・6日	フィジカルアセスメントⅡ研修	ラダーⅢトライ看護師
6～12月	気管カニューレ自己抜去時の対応訓練支援	小児医療センターの全スタッフ
7月25・28・29日、9月25・26・29日	フィジカルアセスメントⅠ研修	2年目看護師

■ 院内活動 委員会

開催日	名称
2016年4月～	虐待防止委員会(第4月曜日/月) 虐待防止委員会コアメンバー活動 松山市連絡調整会(第3水曜日/3か月)

(2) 院外活動

■ 院外活動

開催日	名称	対象
10・11月	松山看護専門学校 講師 「小児周手術期の看護」「小児緩和ケア」「小児虐待について」	看護学生

■ 学会・セミナー参加(Web開催)

開催日	名称
7月4・5・6日	第32回小児集中ワークショップ
11月15・16日	第31回日本子ども虐待防止学会学術会

＜実践・指導・相談＞

- ・ 小児BLS技術習得、急変時対応についての学習支援や振り返りを行い、自部署と関連部署を横断して課題を見出し、それぞれの課題達成支援を行い、教育と環境整備に取り組みました。また観察室支援を実施しながら小児救急に関するスタッフ教育を計画的に行いました。
- ・ 経年別のフィジカルアセスメント研修を通して、院内のスタッフ育成・指導に貢献しました。
- ・ 乳幼児の事故防止指導、虐待対応を行うことや普段からの育児支援を通して、虐待防止委員として虐待予防活動を実践しました。
- ・ 院内の小児救急関連物品の整備管理を実施し、相談対応を行いました。

○皮膚・排泄ケア認定看護師活動:久保美千代、和田理枝

(1) 院内活動

＜創傷ケア委員会、創傷ケア検討部会企画運営＞

- ・ 検討部会第1木曜日13:30～16:00
- ・ 創傷ケア委員会奇数月第1木曜日16:30～17:00
- ・ 創傷ケアリンクスタッフ会 偶数月第3木曜日15～17時

■ 創傷

	2023	2024	2025
褥瘡推定発生率	0.80%	1.00%	0.78%
褥瘡有病率	1.90%	2.80%	2.77%
MDRPU	0.70%	0.60%	0.78%

※2021年日本褥瘡学会

(褥瘡推定発生率 1.15%、褥瘡有病率 2.37%、MDRPU 0.3%)

■ 褥瘡およびハイリスクケア対策の実践

	2023	2024	2025
褥瘡ハイリスク患者ケア	519	1,095	1,739
褥瘡ハイリスクラウンド	429	676	1,048
創傷ラウンド及び評価	429	1,335	1,210

(2) 実践・指導・相談

- ・ 周術期の尾骨部褥瘡発生にターゲットを絞り、深い褥瘡発生数の減少に取り組みました。
- ・ 発生要因の分析結果を基にリンクナースや専任看護師を対象とした学習会を組み立てました。
- ・ 特に、リンクスタッフには、知識の定着と実践的スキル強化を強化しました。マルチグローブやSGEシートの活用が習慣化に至っていない現状より、実践モデルとなる専任看護師向けに学習会を開催し、尾骨部のズレの低減を図る方法を強化しました。次年度も尾骨部をターゲットにして、全体の褥瘡発生数を減少させます。また、d1(発赤)の時点での早期発見ができるよう、予防的介入を強化したいと思います。

＜スチームリハビリテーションチーム会＞

- ・ 開催:5・8・11・2月 第3月曜日(13:30～16:00)

＜実践/相談＞

- ・ 術前・術直後からスチーム造設患者に介入し、精神的なサポートや術後創感染、早期合併症の対応、装具選択、スチームケアの介入を行いました。
- ・ 退院後はスチーム外来で皮膚障害や晩期合併症の対応を行い、日常生活でのサポートを実践しました。
- ・ スチーム外来で「スチーム合併症加算」の算定ができるよう体制づくりを行い2025年1月より開始しました。

＜指導＞

- ・ スチームケアに関わるスタッフを育成し、院内の標準化と質の向上を図るため、ナースングスキルを活用した評価や勉強会を開催しました。装具選択フローの活用や合併症の対応などフォローが必要であり、アセスメント能力を高めレベルアップできるよう、継続して指導していきます。
- ・ 管理困難な事例に対し、情報提供書(クライオ画像付)を活用したケアの継続ができるように地域の関連施設と連携を図りました。
- ・ スチームサイトマーキングのOrchisを作成し、緊急時に観察室でも実施できるよう取り組みました。

■ スチーム

	2023	2024	2025
スチーム外来処置件数	618	594	689
スチーム在宅療養指導料件数	736	529	650
人工肛門・膀胱造設術前処置加算	98	101	125
スチーム合併症加算			51
人工肛門・膀胱造設術前処置(予定)	100%	100%	100%
人工肛門・膀胱造設術前処置(緊急)	91%	91%	91%

■ 在院日数・退院カンファレンス実施

	泌尿器科	消化器外科
在院日数(予定/緊急)	24.4 日	21.5 日/33.7 日
退院前カンファレンス実施率	6 件(100%)	78 件(96%)

< 排尿ケアチーム会 >

- ・ 開催:5・8・11・2月 第1金曜日(17:30～18:00)

< 排泄ケア検討部会 >

- ・ 開催:5・7・10・1・2月 第3金曜日(13:30～16:00)

< 実践/指導 >

- ・ RARP術後患者のラウンドを行い、骨盤底筋訓練指導や外来での尿失禁に対し、排尿用具の紹介やIAD予防などについてケアを実践しました。
- ・ 頸椎損傷や腰椎、脊椎患者の下部尿路機能障害に対しケア介入、関連病棟においてスピーディカテを導入し、CIC指導を行いました。
- ・ 脳卒中や脳外術後患者に対し、尿閉フローに準じて排尿自立に向けた介入、評価を行いました。
- ・ 次年度は術後の神経因性膀胱などによる排尿困難を対象に、排尿自立ケアやCIC指導など実践できるように取り組んでいきます。

■ 排尿自立支援加算および排尿自立指導料(外来)

	2023	2024	2025
排尿自立支援加算数	113	108	133
排尿自立指導料	185	167	149

■ 院内研修(企画)

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
5月9日	おむつ交換	全看護師	789名
5月19日	装具選択(5つの特性)	SR チーム会	5名
5月29日	褥瘡対策診療報酬「圧とずれの排除し皮膚観察について考えよう」	創傷ケアリンクスタッフ	講義22名
6月5日	「褥瘡評価」「スキンケア」「失禁ケア」「骨突出」「圧迫とずれ力の排除」	褥瘡専任看護師	実習44名
6月15～30日	「褥瘡の診断と評価」「褥瘡の診療報酬計画書」	専任医師 専任看護師	動画講義 440名
7月19日	「術前・術中・術後の褥瘡予防」「洗って塗って皮膚を守る」「摩擦・ずれ予防」「褥瘡対策診療計画書について」	創傷ケアリンクスタッフ	講義・実習22名
8月7日	「褥瘡評価」「スキンケア」「失禁ケア」「骨突出」「圧迫とずれ力の排除」	褥瘡専任看護師	実習41名
8月18日、8～9月中	「排尿ケア スピーディカテナビ」について	関連病棟スタッフ	41名
10月2日	「褥瘡評価」「スキンケア」「失禁ケア」「骨突出」「圧迫とずれ力の排除」	褥瘡専任看護師	実習42名
10月30日	「ポジショニングクッション」「危険因子の評価」「洗って塗って皮膚を守る」「IADケア」	創傷ケアリンクスタッフ	講義・実習22名
11月17日	ストーマ合併症について	SR チーム会	5名

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
4月3日	褥瘡治療におけるチーム医療	研修医	12名
6月19日	新人II期研修 創傷予防対策(褥瘡・スキンケア MDRPU・ポジショニング)スキンケア、医療テープ	新人看護師	講義演習60名
6月18日	「看護師と一緒に行うおむつ交換の補助」	夜間看護補助者	夜間看護補助者19名
6月25日	おむつ交換と陰部洗浄	病棟看護アシスタント	講義と実習2名
7月23日	「看護師と一緒に行うおむつ交換の補助」	夜間看護補助者	講義と実習20名
10月6日	「皮膚が破れると一へんだ」	看護補助者	講義と実習93名

■ 院外活動(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象	参加
3月28・29日	排尿機能回復に向けた治療とケア講座	全国医師、看護師	講義・実習64名
9月13日	看護基礎研修II 造血幹細胞移植 拠点病院セミナー「スキンケア」	造血細胞移植看護に関わる看護師	講義34名
10月24・25日	排尿機能回復に向けた治療とケア講座	東京都医療者	講義・実習27名
9月12日	四国SR講習会 基礎コース 実習	ストーマケアに関わる看護師	講義・実習27名
11月15日	四国SR講習会 フォロコース	ストーマケアに関わる看護師	講義・実習32名

< 企画・運営 >

- ・ 講習会企画:四国ストーマリハビリテーション講習会運営委員長 財務委員
- ・ 愛媛ストーマ排泄リハビリテーション研究会:コアメンバー
- ・ 第35回日本創傷・オストミー・失禁管理学会実行委員

■ 学会(参加・座長・発表・共同演者等)

開催日	名称	テーマ(内容)
6月7日	第38回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会	「ストーマ粘膜皮膚離開に対し多職種の連携によるアプローチが有効であった1症例」発表
6月20・21日	第34回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	「連携・協働・WOC 領域のさらなる進化」参加
6月28日	第38回愛媛ストーマ・排泄リハビリテーション研究会	「A病院におけるオストメイトの災害対策の実態と今後の課題」共同演者
8月29・30日	第27回日本褥瘡学会学術集会	「2025年問題を多職種で乗り越える」参加

○ 摂食・嚥下障害看護認定看護師活動:山下かおり

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象	依頼
3月28日	口腔ケア	看護師	11階東
4月25日	新人2期研修 患者観察	新人看護師	看護部
5月19日	新人2期研修 呼吸と嚥下	新人看護師	看護部
5月20日	窒息予防	看護師	HCU
6月13日	安全な食事介助	看護補助者	看護部

6月27日	摂食嚥下障害看護	看護師	11階東
7月22日	摂食嚥下障害看護	看護師	9階西
9月12日	窒息予防	看護師	11階東
9月30日	摂食嚥下障害看護	看護師	11階西
11月28日	嚥下リハビリと口腔ケア	看護師	C-ICU

(2) 院外活動

■ 院外研修

開催日	内容
5月14日	医療懇話会
7月9日	多施設合同新人看護職員研修
7月14日	復職支援研修 安全な食事介助
10月17日	看護人材派遣研修 和ホスピタル
11月14日	看護人材派遣研修 市立宇和島病院
11月26日	復職支援研修 安全な食事介助
12月26日	看護人材派遣研修 特養 しあわせの家

■ 学会・セミナー参加

開催日	名称
2月21・22日	嚥下医学会 2025
9月19・20日	第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

■ ラウンド

開催日	内容
4月～	NST ラウンド 毎週火曜日:隔週に参加
10月～	嚥下支援チーム 第1・3 木曜日

(3) 実践・指導・相談

- ① 脳神経外科・脳神経内科、頭頸部がんなどの嚥下障害患者の評価・スクリーニング、栄養評価などを行い、訓練やリハビリを多職種でカンファレンスしながら実践に取り組みました。
- ② 食事介助や食事姿勢のラウンドを実施、他者評価を行い、担当スタッフにフィードバックしました。
 - ・ 摂食嚥下評価人数:21名
 - ・ スクリーニング施行患者:46名
 - ・ 認定単独での食事ラウンド件数:157名
 - ・ CRT・NST患者のラウンド件数:163件
 - ・ 摂食機能療法算定件数:273件 2026年2月末
 - ・ 摂食嚥下支援加算2件数:29件 2025年10月末
- ③ 2025 年度の入院後誤嚥性肺炎患者の分析・現状報告を行いました。また嚥下機能簡易チェックリスト、スクリーニングの実施率などの状況も看護長会で報告し、意識づけを行い、スクリーニング技術向上のため、担当看護師と一緒に実施していきました。
- ④ 嚥下チーム会の運営として、効果的な活動が行えるように院内・院外に向けて広報活動やシステム整備に取り組みました。チームでの多職種勉強会は窒息事故ゼロにむけて、動画配信を行いました。10 月からはチームラウンドを開始し、支援加算対象患者のカンファレンスの実施や困難症例に対して、チームでの検討を行いました。
- ⑤ 各病棟や個人からの相談に対して、文献提示や勉強会開催などの対応を行いました。

○認知症看護認定看護師活動:玉利未来

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象
2月20日	認知症患者の対応・基礎知識第1回目	夜間看護補助者 19名
3月19日	認知症患者の対応・基礎知識第2回目	夜間看護補助者 20名

4月17日	認知症患者の対応・基礎知識第3回目	夜間看護補助者 16名
5月15日	認知症患者の対応・基礎知識第4回目	夜勤看護補助者 16名
5月26日	新規採用看護研修「せん妄予防」	新人看護師 59名
7月23日	せん妄とアセスメント	10 階西病棟看護師 18名
7月28日	身体拘束についての勉強会	10 階東病棟看護師 15名
10月22日	急性期治療を受ける認知症高齢者のケアを考える	救命病棟看護師 21名
10月23日	認知症の人を理解する	救命HCU 病棟看護師 10名
10月14・28日	身体拘束最小化の実現に向けた看護実践を考える	病棟次席 37名
12月8日	急性期入院時のせん妄評価と対策について	8 階西病棟看護師

<認知症ケア加算 1:認知症ケアチーム活動>

① 認知症ケアチームカンファレンス・巡回

■ カンファレンス

開催日	内容
毎週火曜日(14:00～15:00)	認知症ケアチームカンファレンス

- ・ チーム介入対象患者数:301名
- ・ カンファレンス数:154件

■ 巡回

開催日	内容
毎週火曜日(15:00～)と臨時	認知症ケアチームラウンド

- ・ 巡回患者総数:729件

② 認知症ケア加算 1 算定総数:3,470 回

③ 認知症ケア・せん妄対策マニュアルの見直し

④ 認知症ケアチーム研修会の開催

開催日	テーマ(内容)	対象
7月22日～ 9月30日	身体拘束最小化ー認知症ケアを通した実践と継続のヒント	院内看護職員

<せん妄ハイリスク患者ケア加算>

- ・ 算定総数:9,418件

(2) 院外活動

<企画・運営>

- ・ 愛媛県看護協会 認知症看護研修担当者

■ 院外研修:講師

開催日	名称	対象
7月29日	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	県内看護職員
9月18日	認知症に関する基本的な知識・認知症の方への対応方法	喜多医師会病院 医療スタッフ
9月19日	認知症対応現場向上研修	県内看護職員

■ 学会・セミナー参加

開催日	学会・セミナー名
5月31日、6月1日	第26回日本認知症ケア学会大会
6月27・28・29日	第30回日本老年看護学会学術集会

(3) 実践・指導・相談

<実践>

- ・ 病棟看護師が関わりについて悩んでいる症例に対して、認知症のある患者が感じている生活上の困りごとを代弁し、家族と共に安心して入院生活が送れるように、患者訪問や家族面談を行いました。
- ・ 必要に応じて認知症スクリーニングを実施し、対象者の認

知機能評価を実施しました。

<指導>

- ・ 院内の認知症ケアの質向上を図るため、ナーシングスキルを活用した勉強会の開催や、各病棟のニーズに対応した依頼研修を実施しました。
- ・ 認知症のある患者やせん妄を発症した患者に対し、認知機能障害の症状アセスメントや多職種連携、せん妄発症要因の検索と対応の助言を行い、ケアの方向性を導いて実践に繋ぐサポートを行いました。
- ・ 部署で行う認知症やせん妄患者の事例検討会に参加し、アセスメントや看護実践の評価・助言を行いました。

<相談>

- ・ 外来から、治療同意の意思決定が必要な患者の介入依頼やせん妄予防対策・BPSDの対応、家族ケア等で相談があり、個別に介入しました。

○糖尿病看護認定看護師活動:兵頭佳代子

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象
5月14日	県立病院看護職員合同研修(新人2期)「血糖測定とインスリン注射」	院内現任教育委員会:新規採用者

■ 院内勉強会(企画・支援)

開催日	テーマ(内容)	対象
3月11日	フリースタイルリブレ勉強会	6階西病棟看護師
5月26日	CSII-SAP-リブレって何?	6階西病棟転入者
7月16日	経口血糖降下薬、糖尿病とがんの関係	6階西新人看護師
9月2日	フリースタイルリブレ勉強会	6階西病棟看護師

(2) 院外活動

■ 院外研修:講師

10月27日～ 12月8日	糖尿病・内分泌疾患患者の看護	松山看護 専門学校
------------------	----------------	--------------

■ 学会・セミナー(参加・座長・発表・共同演者等)

開催日	名称	備考
9月20・21日	第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	参加

■ 地域活動

開催日	名称	対象
6月8日	愛媛糖尿病療養指導士試験・面接(面接官として参加)	ECDE 受験者
10月23日	ラジオ糖尿病セミナー 主催:愛媛糖尿病対策推進会議	一般市民
11月9日	世界糖尿病デー街頭活動 in 大街道(療養相談:看護師として参加)	一般市民
11月29日	1型糖尿病+(たす)の会 (糖尿病合併症のファシリテーターとして参加)	県内成人発症1型糖尿病患者

(3) 実践・指導・相談

<実践>

- ・ 外来・病棟で糖尿病患者、家族に対して療養支援を行いました。(外来での療養支援件数:45件、在宅療養指導料算定延べ件数:16件)
- ・ 糖尿病教育入院多職種カンファレンス(毎週金曜日17:30～18:30)
- ・ 透析室看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師と透析室でフットチェックラウンドを実施し、足病変のハイリスク状態の患者に対して、ケアの方法を指導しました。(毎月1回10:30～)
- ・ 入院中の糖尿病足病変のハイリスク患者に対してフットケアを行い、退院後のセルフフットケア方法を指導し、必要

時外来看護師と情報共有しました。(介入患者数:13名)

- ・ 病棟入院患者に対し、兼任日に病棟看護師と共にCSII療法、インスリン自己注射・自己血糖測定指導、低血糖、シックデイ等の指導を行いました。(介入延べ患者数:6西:47名、他病棟:29名)

<指導>

- ・ 外来、病棟で糖尿病患者・家族への療養支援、初期カンファレンスを通して、スタッフへ指導を行いました。
- ・ 糖尿病関連のインシデント発生時にはマニュアル改定やポスターの掲示をすることで再発防止に努めました。

<相談>

- ・ コンサルテーション件数:12件

依頼内容:・CSII/持続グルコース測定器使用時における放射線検査についてリーフレット作成・職員へ配布・CSII使用患者の看護について(12西、9東、6東、産科、6西)・リブレについて(6西、12東、産科)・フットケアについて(循環器医師、6西)・糖尿病患者への心理的アプローチなど

○慢性心不全看護認定看護師活動:重川みか

(1) 院内活動

■ 部署勉強会(依頼)

開催日	テーマ(内容)	対象
10月17日	「心不全看護」	6階西病棟スタッフ
11月21日	事例検討会 ①	8階西病棟スタッフ
11月26日	事例検討会 ②	8階西病棟スタッフ

(2) 院外活動

■ 院外研修 講師

開催日	名称・テーマ	対象
2月21日	西条中央病院 ラダー研修講師 「心不全看護」	西条中央病院 職員
12月5日	愛媛県看護協会 人材派遣研修 「心不全看護」	久米病院職員
12月11日	愛媛県看護協会 人材派遣研修 「心不全看護」	松山市地域包括 センター 生石・垣生

■ 学会・セミナー参加(自己研鑽)

開催日	学会名	備考
3月15・16日	第8回日本心臓リハビリテーション学会 四国地方会	参加
9月14・15日	第22回日本循環器看護学会学術集会	参加
10月10・11・ 12日	第29回日本心不全学会学術集会	参加
12月6日	第127回日本循環器学会四国地方会	参加

(3) 実践・指導・相談

<実践>

- ・ 外来心不全患者に対し、再入院予防のための療養指導を実施しました。(うち在宅療養指導料加算件数6例)
- ・ 心不全入院患者の生活調整などの療養指導や症状緩和、意思決定支援等、病棟スタッフや多職種と連携しながら取り組みました。
- ・ 心不全終末期にある患者に対し、患者・家族の意向を確認しつつ多職種カンファレンスを重ね、在宅静注強心薬持続投与を導入し在宅へ繋げました。(退院前訪問指導料加算件数2例)
- ・ 外来心不全患者のうち訪問看護導入患者に対し、在宅療養支援・再入院予防を目的とし訪問看護師と直接連携を取り対応しました。(13例)
- ・ 心臓リハビリカンファレンス:毎週水曜日17:00～17:30

<指導>

- ・ 心不全の病態生理や療養指導のポイント、意思決定支援

等において、病棟スタッフと共にカンファレンスを行いつつ、スタッフが実践できるように指導を行いました。

- ・心不全入院患者の介入の方向性や看護支援のポイント、目標を多職種で共有・実践するために、多職種カンファレンスを不定期で企画・開催しました。(17例)

<相談>

- ・院内各部署や他職種から心疾患患者に対する療養支援や意思決定支援に関する相談があり、対応しました。(コンサルテーション件数:10件)

○クリティカルケア認定看護師活動:越智康弘

(1) 院内活動

■ 院内研修(依頼)

開催日	内容	対象	依頼
4月25日	患者観察の基本	新人看護師	院内現任教育
5月19日	呼吸を整える援助	新人看護師	院内現任教育
6月5・6日	フィジカルアセスメントII	ラダーIII・IVトライ看護師	県立病院課
7月25・28・29日	フィジカルアセスメントI(1回目)	ラダーIIトライ看護師	県立病院課
9月25・26・29日	フィジカルアセスメントI(2回目)	ラダーIIトライ看護師	県立病院課

■ 院内勉強会(企画・運営)

開催日	内容	参加
8月12日	急変対応シミュレーション	11階東看護師
9月4日	急変対応シミュレーション	10階東看護師
10月23日	急変対応シミュレーション	10階西看護師
12月10日	急変対応シミュレーション	11階西看護師
12月19日	急変対応シミュレーション	ケモ室看護師
6～3月 第1月曜日	一次救命処置	医師以外の全職員
9～3月	重症患者の栄養	ICU経験1～3年目看護師
9～3月	重症患者の鎮痛・鎮静・睡眠	ICU経験1～3年目看護師
9～3月	重症患者のリハビリ	ICU経験1～3年目看護師

(2) 院外活動

■ 院外研修 講師

開催日	内容	対象	依頼
7月7日	看護出前授業	松山市立勝山中学校	愛媛看護協会
11月1日	急変を防ぐフィジカルアセスメント	渡辺病院	愛媛看護協会
10月22日、 11月12日	フィジカルアセスメントの基本と急変時の対応	愛媛県内の看護師	愛媛看護協会

(3) 実践・指導・相談

<実践>

重症患者において、合併症を予防できるように看護計画や記録を活用して継続した看護が実践できるように活動を行いました。また、医師やリハビリスタッフ、CEなど多職種で介入を行えるように積極的にコミュニケーションをとり実践を行いました。

<指導>

ICUスタッフの能力向上のため、ICU経験の少ないスタッフを対象に、看護にかかわりの深い内容について勉強会を行いました。また、アセスメントが伝わるように思考発話を意図的に行いました。

院内全体では、他CNとともにBLS研修を行い、職員の救命救急の向上に努めました。

<相談>

ICU内ではチェックリスト作成についての相談があり対応しました。

部署外からの相談はありませんでしたが、急変対応シミュレーションを行う際に部署の課題を聴取し、シミュレーションに活かせるように活動しました。

5. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 長野しげ子、伊藤秀隆、濱田理恵、青野洋子. AI看護記録サマリシステムの精度、効率性、臨床適用可能性の検証～AIを看護記録に活用した評価～. 第26回日本医療情報学会看護学術大会. 鹿児島 (2025.6.27-28)
2. 烏谷美穂、和田理枝、横山美知. オストメイトの災害対策の実態と課題. 第38回愛媛ストーマ・排泄リハビリテーション研究会. 松山 (2025.6.28)
3. 山口志帆、山岡真那美. A病棟看護師が行っているストーマ造設患者に対する生活指導の実態-入浴に焦点を当てて-. 第38回愛媛ストーマ・排泄リハビリテーション研究会. 松山 (2025.6.28)